

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク養生環境調査（八重山地区）

八重山農林水産振興センター 牧野清人・中村勇次

1. 目的

八重山地区においては、ほとんどが露地で種付けを行っている。1月から2月の水温が低下する時期に種付けを行うと水温の低下により種が放出されず種の付着が少なくなると言われているが、これまで実証試験が行われていない。よって、年間で最も寒いと思われる時期を見計らってビニールハウスと露天での種付け状況を比較し、実証試験を実施する。

2. 材料及び方法

養生環境調査は、八重山漁協モズク養殖生産部会金城満氏に依頼して行った。

年間で最も寒い時期に試験を行う必要があるため、気象庁の沖縄地方季節予想を元に検討した結果1月に試験を実施することにした。

1月12日に種付けを開始した。コンクリート種付け水槽に1トンパンライトを2つ設置し、露天区とビニールハウス区を設定しそれぞれ10枚ずつモズク網を投入した。培養種はそれぞれ7g/トン投入し、KW21を250cc/トン添加した。1月27日（15日間種付け）に武富島東側漁場へ20枚の試験網を沖出した。

3. 結果及び考察

3月4日に現場調査を行ったところ、露天区・ビニールハウス区共に芽出ししているが確認された。その後、6月3日に現場調査を行ったところ、露天区・ビニールハウス区共に藻体の長さが10~15cm程度と成長が非常に遅く、収穫が不可能な状態であったため、試験終了とした。

4. 今後の課題

種付けの段階で、ビニールハウス区が強風により倒壊するなど保温効果が十分保てなかったが、確認盤への盤状体付着数や盤状体の大きさについては、ビニールハウス区の方が露天区に比べて明らかに数が多く、大きさについても成長した盤状体を確認されていた。沖出し後にはどちらの網からも芽出しが見られたが、その後の生育不調などのため収穫までは至らなかった。

種付け段階では、明らかにビニールハウス等の保温で遊走子の放出が促進され、付着した盤状体も成長が促進されたと思われる。今後、引き続き養生環境調査を行い、寒い時期のビニールハウス等の保温効果の必要性について検証を行いたい。

図1. 養生試験盤状体数

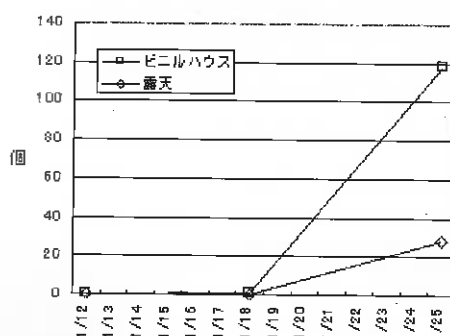


図2. 養生試験盤状体大きさ

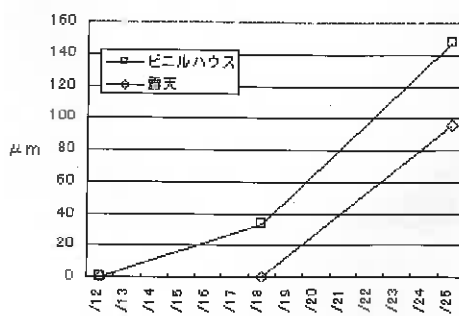
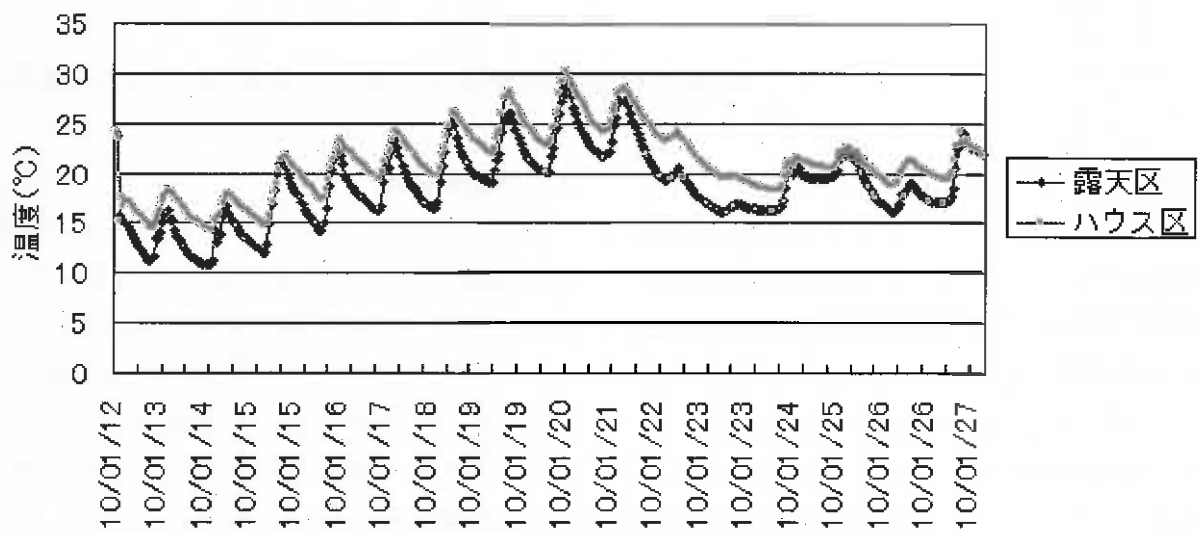


図3. 養生環境調査種付け水槽内の温度変化



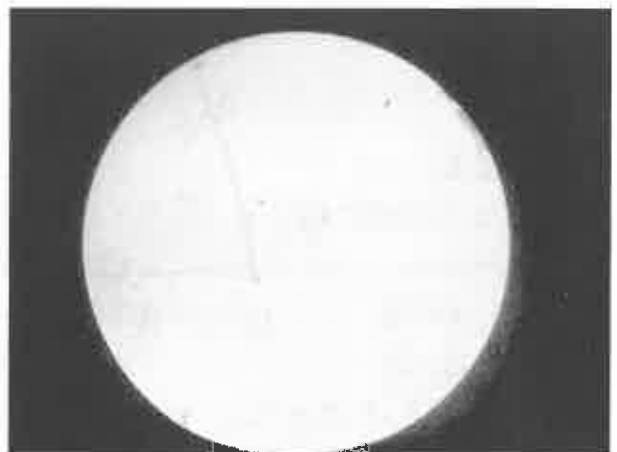
1月12日 養生環境調査開始



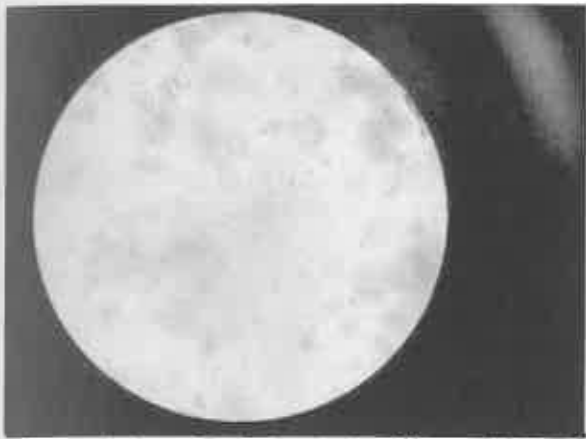
1月12日 養生環境調査を開始



ビニールシート区 (×200倍) 1月18日



露天区 (×200倍) 1月18日



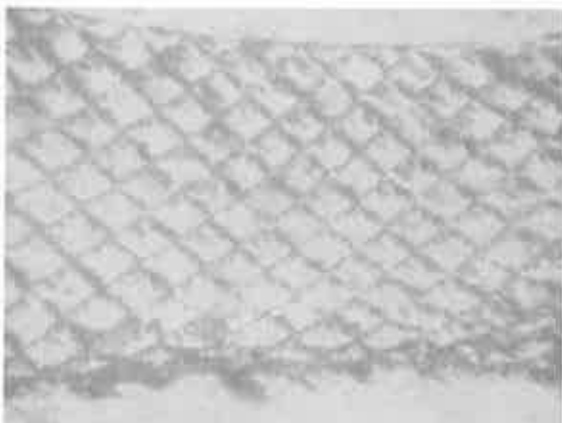
ビニールシート区 (×200倍) 1月25日



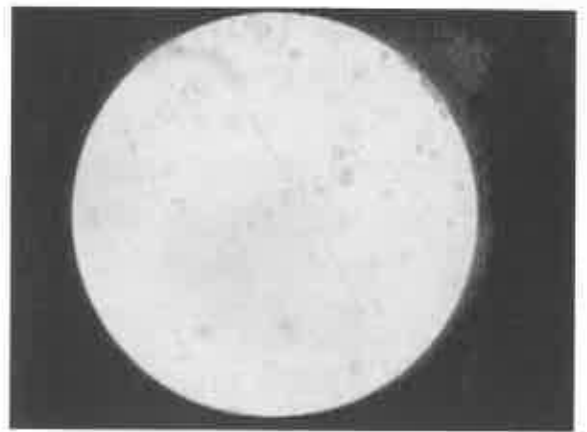
1月27日 竹富島東へ沖出し



3月4日 現場調査状況



6月3日 現場調査 (ビニールシート)



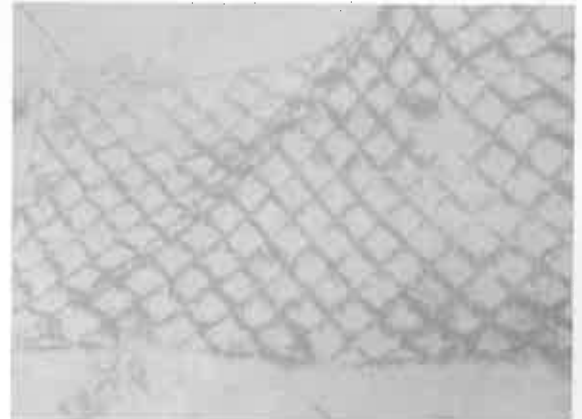
露天区 (×200倍) 1月25日



1月27日 竹富島東へ沖出し



3月4日 現場調査状況



6月3日 現場調査 (露天)